

支那油桐の養苗について

熊本縣林務部 東 鶴 人 井 上 修

(1) 試験の目的

林業の多角経営、將又農家の副業として終戦後若狭樹種の増産が奨励されているが、その中でも本縣には新候的にも最も將來性のある支那油桐に對する各種養苗試験を試みたが本試験は先づ優良な実生苗を造ることに主眼を置き、接木又は人工交配による品種改良の問題は今後の研究に俟つことにした。

(2) 試験の種類

- a. 播付距離別生長比較試験
- b. 促進処理別発芽比較試験
- c. 播種時期別比較試験

(3) 試験の場所及び試験地の概況

熊本縣熊本市大津町森宮苗圃

熊本市を距る東方約22K.m. 大津街道に沿える火山灰質壤土で、昭和7年以來今日迄養苗している輪作苗圃である。年平均気温14°C 年平均降水量1,677m.m. 阿蘇山麓から吹きおろして来る東風は可なり強い所である。

(4) 試験の方法並びに結果

a. 播付距離別生長比較試験

單位面積当り播種量の多少の取替と発芽後の生長関係を究明せんとしたもので、播付距離(坪当り播種粒数)は第一区乃至第四区とし、発芽後二回に亘り尺々苗高を測定したが、その結果は次表の通りであつた。

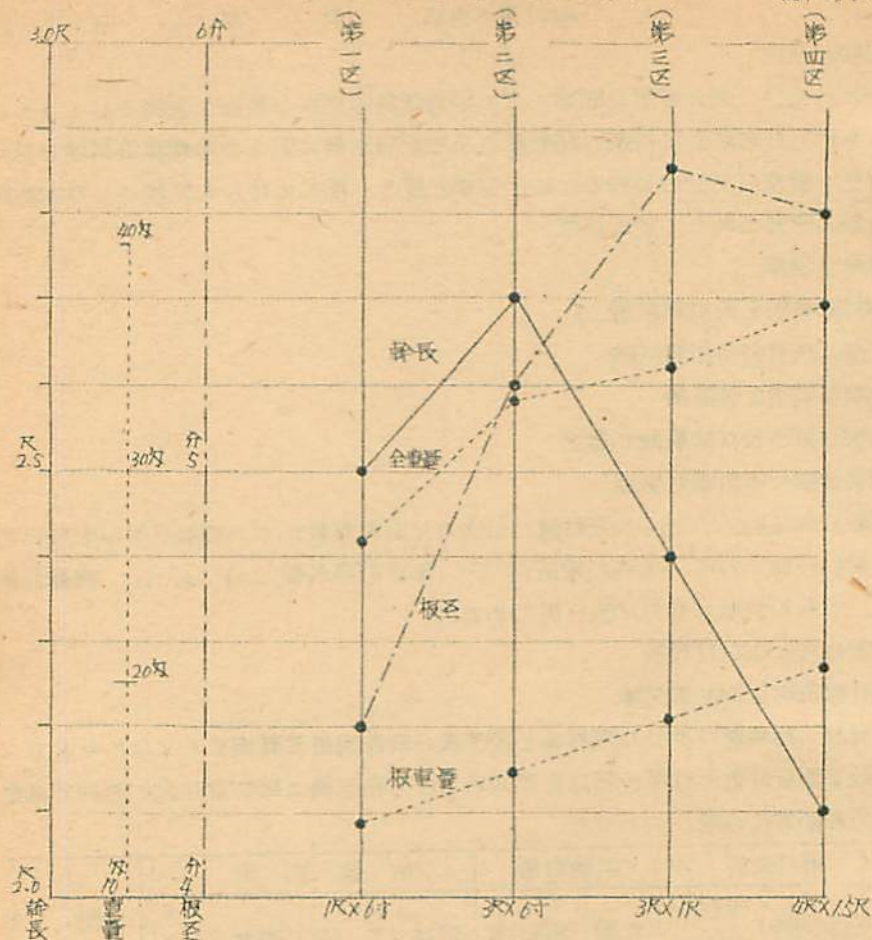
| 試験区別 | 播付距離 | | 試験面積 | | 苗高測定 | | 備 考 |
|------|----------|---------|------|------|-------------|-------------|--|
| | 取替株間 | 坪当り播種粒数 | 面積 | 播種粒数 | 昭和25. 6. 30 | 昭和25. 9. 21 | |
| 第一区 | 1R X 6寸 | 60粒 | 3坪 | 180粒 | 3.3 | 24.1 | 苗高は各区共発芽せるもの全本数測定の平均値とし、苗床発芽率は夫、80%内外であつた。 |
| 第二区 | 3R X 6寸 | 20 | 6 | 120 | 3.2 | 24.6 | |
| 第三区 | 3R X 1R | 12 | 6 | 72 | 3.3 | 20.6 | |
| 第四区 | 4R X 15R | 6 | 9 | 54 | 3.3 | 19.3 | |

(註) 播種年月日、昭和25年4月17日

種子産地 熊本縣芦北郡百濟末村

次に昭和26年3月20日掘取測定をしたが、その結果は次のグラフの通りである。

播付距離別生長比較試験成長グラフ 昭和26.3.20 測定



附 註 各区共本苑平均値とす。

このグラフを見て播付距離が大なる程優秀なものが出ることを判る。然しこれには苗木養成経費の限度が自らあるから各区毎に一本当りの養成費を計算して見ると次の通りで第一区と第四区では非なる間きがある。一本当りの養成費を表示すれば次の通りである。

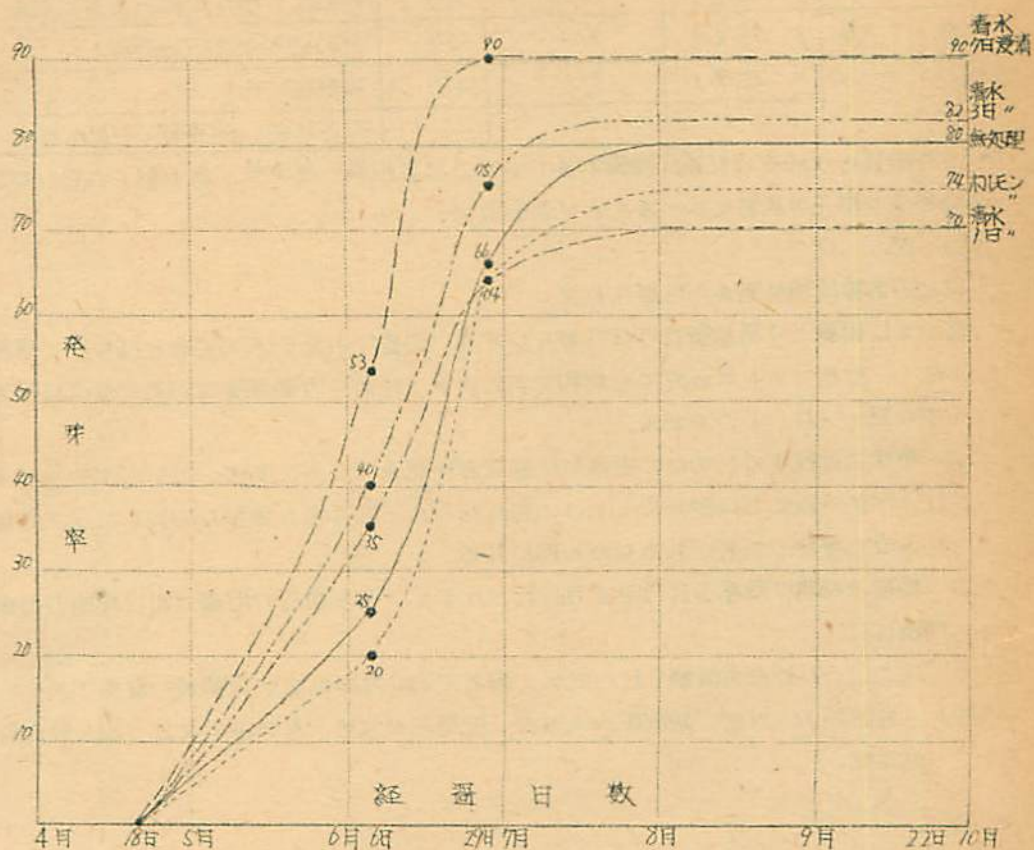
第一区 1/10 第二区 1.85 第三区 2.60 第四区 4.45

以上の結果から見れば播付距離は相当縮められる可能性があるようである。

B. 処理別発芽試験

各種処理別に発芽率を試験したが、その結果は次のグラフの通りである。

処理別発芽試験成果グラフ



(註) 昭和25年4月18日播種 全6月6日 6月29日 9月22日 発芽率測定

供試量各区共種子400粒 水辰井校産

この結果から判断すれば、清水浸漬7昼夜のもののが最も発芽率良く、而も発芽完了期が他のものに比して早い。而してホルモン0.04%浸漬1昼夜のもののが最も遅く早く無処理のものより却って悪い結果を示した。

C. 播種時期別比較試験

収播と春播との発芽率並びにも辰状態を比較するために本試験も参考程度に試みたが、その結果は次表の通りである。

杉種時期別試験成績表

| 時期別 | 測定年月日 | 発芽率(発苗率) | 苗高 | 備考 |
|-----|-----------|----------|------|------------------------------|
| 秋播 | 昭和24年1月30 | 60.4% | 48寸 | 昭和24年12月23日播種 |
| | " 25.9.21 | (44.2) | 24.3 | 播種量9升(伊北郡百済末村産種子) |
| 春播 | " 25.6.30 | 12.2 | 3.7 | 昭和25年4月17日播種 |
| | " 25.9.21 | 21.7 | 21.7 | 播種量9升(全上) 苗高は各、100本平均値とす。 |

この結果から見て秋播は成績不良である。なお秋播の発芽率(発苗率)の低い原因は多分冬季中種子が寒害にかゝるためと懸われる。

(5) 結 び

以上の各種試験結果から考察すれば

A 單位面積当り播種量は可なり多くしても、生産された苗木の実質には大して影響はなく、生産コストから見て有利であるから1坪当りの播種量は60粒程度迄は厚播しても差支へないようである。

B 発芽を促進するためには清水に7晝夜程度浸漬すべきである。なおホルモン剤使用は0.004%濃度では効果がうすいと懸われるので処方箋の濃度の倍以上にして処理したら或る程度の効果があるものと懸われる。

C 播種の時期は春季3月乃至4月に行つがよく、而も種子の貯蔵は別に特別の困難な問題は無い。

なお以上の他肥料試験も行つたが、堆肥坪800匁施用区が成績最も優秀であつた。

(註) 堆肥坪800匁区、堆肥坪400匁区、硫酸坪30匁区、木灰坪10匁区、及び無肥料区の五区。

白田地方に於ける杉挿木苗養成について(第一報)

大分縣林業試験場 高 倉 優

白田地方に於ける杉苗は蘆荻林地に挿付ける方法と床挿法の二法があります。明治以前は直挿法ばかりでありまして今も当地方一部で実行されていますが、近來殆んど床挿法が行われて居ます。即ち明治の初期になりまして床挿法を用ひ始めましたが、これも自家養成を主として居り、大正年間になつて生産販売を目的とする大量の養成が行われる様になり、研究を重ね現在白田郡市年間800万本以上生産する様になりました。私はこゝに5ヶ年向毎年5、60万本程度の挿木養成を実行して来た苗圃の実行者でありまして、毎年事業の